

令和5年度 教育活動に対する学校評価

学校法人 島田中央学園 みどり認定こども園
園長 杉岡 弘巳

1 みどり認定こども園の教育目標

元気に遊ぶ子

職員目標

『明日が待たれるこども園』

【知】自分で考え、のびのび表現出来る子

【情】多くの友だちと関わりながら遊び、温かみのある子

【意・体】夢中になり力いっぱいがんばる子

【躰】良い生活習慣を身につけている子

	評価項目	自己 評価	考 察	関係者 評価
1	教育目標『元気に遊ぶ子』にそって計画的に教育活動を展開している。	A	コロナが第5類に移行され、季節ごとの行事や栽培収穫の活動、更に園児の発達に応じた活動を計画的に設定したことで、生活の中に活動が定着し、遊びを考えたり関わりながら広げていったりする姿を少しずつ見ることができ『元気に遊ぶ子』の達成に近づいています。	A
2	こども園の行事は年齢に応じた豊かな体験を計画している。	A	子どもたちの発達を確認しながら、行事や体験を通して成長の幅が広がっています。長い教育計画の中に縦割り活動、集団活動が入っており、定期的に活動の見直しを進め、新鮮さを保つことができるように工夫しています。	A
3	乳幼児の発達を踏まえ一人ひとりの興味関心を探り、子ども達の持っている力や姿を大切にしている。	A	保育教諭全体で乳幼児の発達を捉え子どもと向き合っています。0歳児から5歳児の興味関心を職員会議で伝えあい課題として活動計画を考え、アイデアを出し合っています。	A
4	一人ひとりの個性を大切に意欲や自信を持たせている。	A	個々への対応として保育記録にエピソードを取り入れて記述し、一人ひとりの思いを表現として受け止めるよう努力しています。記録を通して園児の成長を学ぶ機会とし、褒め、認め、励ますことが自信へと繋がることを共有できるようにしています。	A
5	集団生活に必要なきまりや、約束の大切さを指導している。	B	「友だちと一緒にいると楽しい」と集団生活が楽しくなっていく為には、時には我慢しなければならないことや約束やきまりがある事を年齢ごとに指導しています。	A

6	子どもの育ちを保護者と共有しようと心がけ、家庭での状況を考慮しながら子ども理解に努めている。	A	保護者の意見に丁寧に対応している。家庭での状況をしっかり受け止め、こども園で友だちと過ごす様子を伝えて早めにお互いの状況を理解し、一人ひとりに配慮するようにしています。	A
7	計画的に避難訓練、安全点検を行い園児の安心、安全に努めている。	A	避難訓練計画の中で消火訓練を毎月行うよう計画しています。 『放送に耳を傾けること』、『自分で考えて自分の身を守ること』が意識出来るよう繰り返しの訓練をして定着を図っています。	A
8	室内環境、衛生面の維持や、体調管理に努め定期的な健康診断を行い子どもの『健康』に配慮している。	A	施設内の衛生環境に十分配慮し、毎月の身長・体重測定や内科・歯科等の健康診断では、身体と共に心の面などの相談まで園医と連携をとっています。	A
9	一人ひとりの人格を尊重し、自己肯定感を育む教育保育に取り組んでいる。	A	自分の良さに気づかせながら小さな活動の中でも『行為の価値づけ』をすることが、自信や自己肯定感を高めることに繋がっています。	A
10	こども園は子どもたちに【明日が待たれるこども園】となっている。(明日遊ぼう！友だち先生と過ごせることを楽しみにしみにしている)	A	「明日も友だちと遊びたいな」「こども園に行くのが楽しみ」という明日を心待ちにする環境や教育保育を心がけています。 保育教諭全体が他クラスの子どものことを知っている強みを生かして、担任でなくても積極的な関わりをしています。	A

【教育活動の評価から】

現況

- 保護者アンケート項目1の教育目標『元気に遊ぶ子』、項目7の安全教育に関する避難訓練などは高評価となりました。安心、安全な活動の再点検、毎月行う避難訓練の見直しなどをし、園内環境を整えてきました。
- 園目標『明日が待たれるこども園』という職員目標は高い評価をいただきました。子どもたちにとって園の生活が楽しみになり、友だちとの関わりが深まっていると感じます。各家庭のご協力をいただいた結果でした。
- R5年度にコロナが第5類に移行されましたが、乳幼児が在籍する当園では感染が心配された為、行事等の人数制限やマスクの着用など、感染防止に向けての対応が続きました。そのような中においても、誕生会には、該当する保護者の参加や夏場のプール活動の実施、また、様々な活動に、保護者ボランティアをお願いし多くの協力を得て活動推進ができました。職員検討会でR6年度はさらにホームページの配信、クラス便り、電話連絡、個別面談また、園内活動の参加人数を増やすなどの改善を進めていきます。

【元気に遊ぶ子の再考】

- ★遊び=学びという視点で活動全体を見直し、主体的に遊びに取り組む子を育成していきます。そのためには、子どもたちの興味・関心や好奇心を高められる環境構成を職員全体で再度考えていくようにします。

令和5年度 教育目標「元気に遊ぶ子」に対する学校評価書

令和6年3月31日
学校法人 みどり認定こども園

	目指す姿	具体的なあらわれ	保護者(5.4点合計%)			保育 教諭 ABC	自己評価から	
			赤	青	黄			
元気に遊ぶ子	自分で考え、のびのび表現できる子	自信を持って表現	81	88	91	A	『聞く・話す』活動の中で大切にし、継続してきました。場面が切り替わる時には、呼びかけの仕方を工夫し、手短かに話したり、耳を傾けられない場合や注意集中できない子にはユニバーサルデザインの視点から視覚を利用したりして伝えるようにしています。(イラスト・写真など) 発達段階に応じて、自己表現できたことを褒め、認めて自信を持たせるように対応しています。	
		人の話を聞ける	79	94	70	B		
		自分の思いを言葉で伝える	83	88	82	A		
	誰とでも遊び、思いやりのある子	明るく表情豊かである	96	100	96	A		職員目標(方針)を『明日が待たれるこども園』とし、時間を忘れて夢中で遊ぶ姿を大切にできる環境作りを心がけています。自分の遊びから友達との遊びに広がり、十分満たされると、表情も豊かになり関わり方を学んでいきます。目標を大切に、各家庭での協力をお願いします。
		友だちと仲良くできる		100	88	A		
		人の気持ちを考える	69	85	70	B		
	夢中になり力いっぱいがんばる子	思い切り身体を動かして遊ぶ	96	97	95	A	『思い切り身体を動かして遊ぶ』ことは、元気に遊ぶ子の園目標に則した具体的な内容です。保護者の方々からも高い評価をいただきました。いろいろな活動に対して興味を持たせながら、少しずつ継続していく中で、やり通そうという気持ちが見られますが、主体的に自分から取り組む姿勢づくりには、今後根気よく援助していく必要があります。	
		やり通そうとする		83	84	A		
		自分から取り組む	73	76	80	B		
	良い生活習慣を身につける子	あいさつができる	73	82	66	A		「あいさつ」については、バスから降りた時や保育室に入る時など気持ちのよい挨拶ができるように、働きかけています。自分たちが遊んだ物を元の場所に戻すことは、園生活の中で時間を決めて取り組んでいます。自ら実施するまでには、あと一歩です。ご家庭とも課題を共有しながら、『良い生活習慣』が身につけられるように、常に言葉かけの工夫をしていくことが大切です。
		物を大切にする 片付けが出来る	65	74	61	B		
		約束やルールを守る	75	88	75	B		

令和6年度、さらに教育活動を進め、保護者連携を深めていく目標

◇ 物を大切にする・片付けができる

『あいさつ』『物を大切にする・片付け』『約束やルールを守る』など「生活習慣」の課題が明確となりました。

＊園内環境の見直し

- ・写真を利用し、視覚で片付ける場所を示すことでわかりやすくする。(ユニバーサルデザインの視点から示す)
- ・繰り返し『物も人と同じで心がある』ということを伝えていく。(絵本などから)
- ・保育教諭が手本を示し、場面に応じて物の扱い方を教え、身の回りの整理整頓をすると気持ちが良いことを示し知らせる。
- ・子どもの発達に合わせて玩具の量を考え適量にし、配置を考えていく。
- ・×「片付けましょう」○「元の位置に戻しましょう」言葉をかけながら繰り返すようにする。

◎『自立』を目指して

こども園では、最終的な目標として、子どもたちの自立をめざしています。時間をかけながら、「自分のことは自分でできる子」を育成していきたいと考えています。入園したての赤組さんは、靴箱で自分の靴を脱ぎ、上靴に履き替えて自分の部屋に向かいます。そして、さまざまなことを吸収して心と身体が成長をしていきます。次年度からは「気持ちのよい生活をする子」という視点から、よく食べ・よく寝る、あいさつができる、片付けができる、生活の約束やルールを守る、ことに取り組んでいきます。これらのことは、試行錯誤しながら成長に合わせての言葉かけが必要です。次年度も保護者連携の中で生活習慣の自立を目指す工夫や配慮を取り入れて園と家庭で努力することを共有していくことが大切です。